

平成30年度 第2回岡谷市行政改革審議会 会議録

- 会議名 平成30年度第2回岡谷市行政改革審議会
- 日時 平成30年12月14日（金） 15:00～17:00
- 場所 理事者控室
- 配布資料
 - ・資料1 岡谷市行財政改革プログラム【概要版】
 - ・資料2 岡谷市行財政改革プログラム（2019年度～2023年度）（案）
 《諮問書写し含む》
 - ・資料3 岡谷市行財政改革プログラム実施計画（2019年度～2023年度）（案）
 - ・資料4 今後の審議日程及び内容
 - ・資料5 第5次岡谷市総合計画（最終案 抜粋）
 - ・追加送付資料 岡谷市行財政改革3か年集中プラン（案）答申書（平成27年度時）

1 開会・岡谷市民憲章 唱和

会 長 ただ今から、第2回岡谷市行政改革審議会を開催いたします

（市民憲章唱和）

2 会長あいさつ

会 長 本日は、6名の欠席となっておりますが、8名の出席があれば、審議会成立となりますのでお願いします。

本日は、市長から本審議会に対しまして、新年度からの行財政改革に関する計画である「岡谷市行財政改革プログラム（案）」に関する諮問をいただくこととなっております。

よろしくお願いいたします。

3 諮 問

岡本課長 それでは、これより市長から「岡谷市行政改革審議会」に対しまして、岡谷市行財政改革プログラム（案）についての諮問を行います。会長さん、市長は、前にお進みください。

《諮 問》

4 市長あいさつ

岡本課長 続きまして、今井市長よりご挨拶を申し上げます。

今井市長 皆様、改めましてこんにちは。

委員の皆様には、公私とも大変お忙しい中、岡谷市行政改革審議会にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。日頃より、本市の行財政運営につきまして、ご理解・ご協力をいただいておりますことに、御礼申し上げます。

岡谷市では、昭和60年度に「岡谷市行政改革大綱」を策定して以降、平成28年度から現行プランであります「岡谷市行財政改革3か年集中プラン」により、新たな財源の確保による歳入確保や事務事業の見直しなどによる歳出の削減など、積極的に取り組み、一定の成果をあげてまいりました。

しかしながら、少子高齢化・人口減少の時代、また、社会保障関係経費の増、加えて、高度成長期に精力的に整備をしました公共施設等の維持管理への対応などの行政課題も存在しております。

こうしたことから、引き続き、多様化する市民ニーズへの対応や将来を見据えた、持続可能な行財政運営をめざすため、新たな行財政改革の計画を策定し、積極的な取り組みを推進することといたしました。

ただ今、諮問をさせていただきました、計画(案)に対しまして、様々な分野で活躍されている委員の皆様のご意見をいただき、計画を整えてまいりたいと考えておりますので、活発なご審議をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(市長公務により退席)

5 会議事項(議長：会長)

会 長 ありがとうございます。

ただ今、「岡谷市行財政改革プログラム(案)」につきまして、諮問を受けました。皆さんに、資料が配られておりますので、それについてこれより、説明と審議を進めていきたいと思っております。それでは、よろしくお願いします。

それでは、「(1) 岡谷市行財政改革プログラム(案)の概要説明について」事務局から説明をお願いします。

(1) 岡谷市行財政改革プログラム(案)概要説明(事務局秋山主幹より説明)

会 長 ありがとうございました。ただ今、「岡谷市行財政改革プログラム」につきまして、どのような骨子で新たに作り上げていくのかを説明していただきました。

これにつきまして、ご質問等ありましたらお願いします。

よろしいでしょうか。この後、もう少し詳細な内容説明を受けますので、その時点でお出しいただいても結構です。

それでは次へ移らせていただきます。

続きまして、「(2) 岡谷市行財政改革プログラム(案)審議について」、事務局より説明をお願いします。

(2) 岡谷市行財政改革プログラム(案) 審議(事務局秋山主幹より説明)

会 長 ありがとうございました。いずれにしても、１０年間の「第５次総合計画」が議会へ提出されております。その中の位置付けとして、市政運営の推進という、施策の大綱の中の１６項目目、持続可能な行財政運営、公有財産の適量・適正化において、本プログラムが（案）として作成されて提出され、その中に具体的な施策が盛り込まれているという内容の説明をしていただきました。

 たくさんの量ではありましたが、質問がありましたらお願いします。また、少し勉強していただいて、今月末の審議会までに所定の様式により質問をいただければ、事務局より説明があるとのことでもあります。

 その他、いかがでしょうか。

委員 N よろしいでしょうか。まず、行財政改革と行政改革の言葉の違いがあるかどうか教えていただきたい。

秋山主幹 行政改革という言い方が一般的であります。岡谷市においては行政改革に財政改革も必要であるということから、行財政という言葉を使っております。行政改革と言いますと、とにかく運営だけにみられがちですが、お金も付いてくるという考えから行財政という言葉を使っております。

会 長 この審議会は、行政改革審議会ですがお金はつきものということで、財政についても検討せざるをえないということです。

 他にいかがでしょうか。

 一つ私からよろしいですか。実際の具体的な事項の中で、新規の項目が少ないような気がしますが、目標値について、平成３０年で終了となる現在の総合計画の目標値に対して、新たな３項目の目標値について厳しいものになっているのか、今までと同じ横並びの数値となっているのかお聞きしたいと思います。

秋山主幹 全体目標の部分でよろしいでしょうか。

 全体目標につきましては、第５次岡谷市総合計画と同じ数字を使ってございます。総合計画について、庁内に検討する中で、このプログラムにつきましても併行して検討を続けてきました。岡谷市としますと、このような行財政に関する個別計画としてこのプログラムを位置づけておりますので、同じ目標となるところであります。

 以上でございます。

会 長 個々の具体的な施策に対しては勉強をして質問状を使って質問をしていただき、今日は大きな部分についての質問をいただければと思います。いかがでしょうか。

秋山主幹 さきほど、目標値のお話がありましたので、若干補足をさせていただきます。

プログラムの15ページをご覧くださいまして、公共施設の延べ床面積、基金残高と記載をしてございます。簡単に申し上げますと、基金残高につきましては1年1年の市政運営の中で、お金を残す運営をしていく。そうでないと、お金が貯まっていけないというかたちであり、5年で3億円を積むということで、1年1億まではいきませんが、このような高齢化が進む社会の中で、財政的な余裕を生みながら積み立てていくことは、厳しいと考えております。

それから、公共施設の延べ床面積につきましても、岡谷市では一番公共施設で面積があるのは教育施設で、次が、産業系の施設でラオカヤやイルフプラザなどの面積が多いという状況になっております。こちらについて、6%削るという目標となっておりますが、公共施設は運営をすれば経費が掛かってくるということでございます。公共施設については、黒字になる施設は少ない状況のため、この部分について少しでも効率化をするべきとしてこの目標値を定めております。

市債の残高につきましては、借金は簡単に減らすことはできると思われがちですが、先ほどの説明でも申し上げました、公共施設の老朽化が進んでおりまして、これらの改修や修繕工事をするためには、一定程度お金を借り入れなければ出来ないということがあります。この部分を減らすためには、相当効率的な財政運営をしなければ、市債残高を順調に減らすことは出来ないと、市役所内で議論をしてこのような数値目標を考えてきたところでございます。

また、重点改革項目の中に未利用地の活用という項目がございますが、ご存知かもしれませんが、現在、湊の廃川敷地について公募という形で入札に出ております。市のまちづくりに係わる、広い土地も他にもございますので、そういった場所も有効活用するように、売却や活用に努めて、何とかお金を残しておこうと設定をしてあります。

実施計画にある全ての計画をやり切ればこの目標値が達成できるかということでは、目標達成は難しいので、それ以外にも政策的に決定をして進めていかなければならない要素も多分にありますので、そういった取り組みを積み重ねて5年後には目標達成できれば、考えております。

計画書の中で、財政推計もこのようにお示しをさせていただきましたけれども、新聞報道でご存知かと思いますが、幼児教育の無償化といった国の動きもあり、国もはじめは、全て国費で賄うという話もありましたが、現在の状況では、地方も一定の負担を求めるといった状況になってきておりますので、財政推計自体も変わってきている状況もあります。そのような、地方の負担については市にお金がないとできませんので、どのように予算や決算を作っていくのかも含め総合的に取り組まなければ、この目標は達成できないと考えております。

以上になります。

会 長 非常に厳しい状況ということは、ただ今の説明で分かりました。基金残高について、5年間で3億円増やし、市債残高を4億円減らすということは、7億円うかせなければならないという意味だなと。平成30年度までは、職員数の削減を

うたっていました。委員さんの中からは窓口対応が悪いなどのご指摘もありましたが、人の人数というよりも、人材の教育をして優秀な部下を育成して対応することが、重点項目として出されているので、大変な時代に入りつつあるということに、理解ができます。

他にいかがですか。

委員 K よろしいですか。具体性が無くて申し訳ありませんが、新聞報道などでスマートインターが開設となる方向だとなった場合、せっかく開設となるのであればそれを活かした歳入確保の取組を検討しても良いのでは。今までの取組にさらに付け加える必要があるのではと感じています。

具体的に、工業的なものが良いのか観光的が良いのかは自身では分からないのですが、何かに活かしたいとは思っています。

山岡副技監 今、スマートインターの有効活用ということで、ご提案いただいておりますが、当初より、地元からも意見が出ているところであります。現在、ルートを明確にして具体的な測量、設計、用地買収、工事と結構なお金がかかりますので、順次工事を進めていくことになります。

今ご提案のあった財源確保や人口増に対してももう少し積極的にやるべきだと思いますので、もう少し事業の具体化をお待ちいただければと思います。

秋山主幹 非常に良い意見をいただきましたので、答申書で最終的にまとめるようになります。まだ先の話ではございますがそういった形での歳入確保というご意見は載せていきたいと思えます。

委員 E よろしいですか。今回のプログラムは10年というスパンの中で、前期が5年とお話を伺ったのですが、10年のスパンの中で水道事業の民営化や国の施策の中で変わってくる可能性が充分あると思うが、そういった国の行政の方向により、プログラムの修正や改定が途中で可能かどうかについてお考えを伺いたい。

秋山主幹 はい。今回、このプログラムについては5か年で策定しており、計画期間の部分でご説明をさせていただきましたが、社会情勢は変化しますので、必要に応じて改正をしていきたいと考えております。

以上になります。

委員 E 承知しました。

山岡副技監 ただ今、秋山から説明がありましたが、資料2のプログラムの14ページの(3)の計画期間の部分に説明内容が書かれていますので、やはり、私達も時代の変わり方が非常に激しいので、こういった計画の策定にあたり先が読めない部分もありますので、適宜見直しが必要であることは認識しております。

会 長 他にはよろしいでしょうか。

この中にある、少子高齢化の少子の部分について人口増に対する施策は別の部分で出てくるのでしょうか。

秋山主幹 収入を増やすという意味では、長期的にみれば子どもが出来て働くようになれば税主確保になると考えておりますが、行財政改革という部分では少子化に対する施策については整理をしてはおりません。

会 長 保育園整備ぐらいですか。

秋山主幹 そうです。

会 長 人口が、１０年後には３万１千人とのことですが、それを何とか４万人台に保つことについてこの前出されていたのが、総合計画の大きな目標値だったと思いますが、そのようなことにも目を向けながら、行財政改革をやっていかなければいけないと思います。

委員 K よろしいですか。人口を増やすことは、子どもたちが増えてこなければ、これからは高齢化が進むばかりです。この計画にはそのような部分があまり盛り込まれていないということですが、育児支援や国で言っている、妊婦に対する税の関係について、市には今回の計画についてそういった部分の財源はないということでしょうか。

やはり、人口はただ若者を増やすだけでなく、妊婦といった育児の面から増えることもずいぶんあると思うのですが。

秋山主幹 はい。詳細が不明な部分もありますが、政策としますと、岡谷市が力を入れて取り組むべきとして、子育て支援の関係は事業化を検討しております。資料５の最終案をご覧ください。施策の大綱の表中の行財政改革プログラムの位置づけとしますと、１６の市政運営の推進の中の、１から３に関連すると説明をさせていただきました。ここに出てくる計画になりますので、そうした施策は表立っては出てこないものになります。

子育て支援につきましては、一番上になりますが、子ども・子育て支援の推進ということで、こちらで施策として掲げていくという整理になっております。歳入の増という部分がありますが、計画の整理上は出てきていないということでご理解をいただければと思います。

なお、この部分につきましては、個別計画ということで、児童育成計画や子ども・子育て支援事業計画などがあります。

妊婦の関係につきましては、基本目標のともに支えあい、健やかに暮らせるまちというくくりにおいて、子ども課や妊婦の担当をしている健康推進課、介護福祉課などについて入っておりますので、この中で妊婦に対する支援、政策につき

ましては展開をしていくということになります。

委員 N 第5次総合計画の策定に携わったのですが、子育ての問題は第4次総合計画に比べて第5次では一番にきている。いかに人口に関する事が大事な問題かということで1番に子育て支援の推進という項目がきている。それについて財政と関連するものについて、答申というかたちからすれば、提示されたものの範囲で我々はものを考えていかなければならないか、それ以上に5年、10年の計画の中の項目それぞれをここに押し込んでいいものか、どこで線を引けばいいのか、示されたプログラムの範囲だけで考えていいのかということを確認したい。提示されたものを理解して、その答申ということでもいいのか、あるいは、広い計画の中のものを話題にだしていいのか。

秋山主幹 先ほど、ここだけの範疇のなかでというお話をいただきましたが、計画とするとある程度領域はかたまっており、このプログラムの中に反映できない可能性があります。子育てに関することは、今後の岡谷市の行財政を考えると必要だという観点があれば、答申の中に盛り込んでいくということは可能です。

会 長 私もこの範囲だけでなく、大綱にのっている上の項目も含めて、答申へ盛り込んでいければ良いと思っております。財政的にはお金を使うことにはなりますが、やはり使うところへ使い、ばら撒き政策はこれからの時代には合っていないように思います。痛みを市民も一緒に分かち合うという時代に入ってくることは間違いないので、それを見据えた答申ができたと思います。

まだ時間的にはありますが、よろしいでしょうか。

我々も勉強する時間を少しいただいて、今回、出ていない項目についても質問状により意見等出させていただければ、事務局からの的確な回答があるかと思えます。それではよろしいでしょうか。

委員 N 第4次総合計画では、本来の財政改革の項目がなく、第5次総合計画になって初めて政策ということ出てきたが、普通の考えでいけばお金の部分は非常に大事だと思います。ですから当初から計画の中にあったと思っていたが、第5次から出てきたことは良いと思うのですが、第4次総合計画の中では行革というものがどのように動いていたのかがよく分からない。

第4次総合計画においても、今回出ている目標値というのは示されていたと思うのですが。

秋山主幹 行政運営に関することは、第4次総合計画では基本目標という括りではなく、全部に関わることとして、「総合計画の推進に向けて」という別項目で編集されていました。その中に「将来を見据えた行政経営の推進」というのがあり、それを第5次総合計画では基本計画の中の、一つの柱として位置づけています。

目標値については、「将来を見据えた行政経営」には定めておらず、行政改革

プランの中で、目標値を定めていたという状況でございます。

会 長 第5次総合計画では、今までと変わったところとして、子育ての部分が一番上位に据えられ、最後のしめくくりの市政運営の推進部分へ、財政の数値目標として、別項目として出ているということですね。

委員 H では、16-1の持続可能な行財政運営の中に全てが含まれるとして、広く意見を述べていけばよろしいのでしょうか。

上の施策全てを踏まえて、持続可能でなければいけないということでもよろしいのでしょうか。

秋山主幹 そのような見方も必要だと思います。計画中自体に入れられるかという検討させていただきますが、意見として当然そのような経費削減や歳入確保といったところはあると思いますので、子育て支援や人口増という対策を推進しながら、行財政についても改革を進めて欲しいという計画のあり方に意見を頂ければ、答申として承り、計画書の文中へ入れるなど、考えていきたいと思います。

会 長 よろしいでしょうか。

この、行政改革審議会はもう一つ事業仕分けをするということがあります。その際は、すべてを見据えて実施していただくことになりますので全体を見ながら進行を見守っていただきたいと思います。

6 その他

会 長 事務局から何かございましたら、お願いします。

今後の審議日程及び内容について説明(事務局：秋山主幹)

- ・ 第2回 30年12月14日(金) 理事者控室
- ・ 第3回 30年12月27日(木) 理事者控室
- ・ 第4回 31年 1月11日(金) 605会議室
- ・ 第5階 31年 1月25日(金) 理事者控室
- ・ パブリックコメントの実施

会 長 ありがとうございます。

日程がこうになりますので、ご都合をつけていただきたいと思います。

他に何かありますか。

秋山主幹 補足をお願いします。現在の計画であります「3か年集中プラン」の策定にあたり、答申書を作成しております。参考にしていただければと思いますので、別途郵送させていただきます。

会 長 それでは、ここで終わりにさせていただきたいと思います。

7 閉 会

委員 H 以上を持ちまして、第2回岡谷市行政改革審議会を終了いたします。ありがとうございました。